

コヘレトの言葉



シリーズ～旧約聖書入門～

2012/10/14

「コヘレトの言葉」について



❧ 旧約聖書の知恵文学の一冊

❧ 他にはヨブ記・箴言・詩篇の一部など

❧ 著者はソロモン王か？

❧ 「エルサレムの王、ダビデの子、コヘレトの言葉。」1:1

❧ 「コヘレト」とはヘブライ語で「集める人」の意

❧ 口語・新改訳では「伝道者の書」、英語ではEcclesiastes

❧ 書かれた時期

❧ ソロモン王なら紀元前10世紀前半,もっと後かも？

❧ 特徴

❧ 非常に東洋的,と言われる

この世の空しさ



☞ すべては空しい

☞ 「コヘレトは言う。なんという空しさ／なんという空しさ、すべては空しい。太陽の下、人は労苦するが／すべての労苦も何になろう。」 1:2-3

☞ この世に起こっていることは繰り返しに過ぎない

☞ 「かつてあったことは、これからもあり／かつて起こったことは、これからも起こる。太陽の下、新しいものは何ひとつない。」 1:9

☞ 快楽も事業も贅沢も空しい

☞ 「しかし、わたしは顧みた／この手の業、労苦の結果のひとつひとつを。見よ、どれも空しく／風を追うようなことであった。太陽の下に、益となるものは何もない。」 2:11

人生の無常・死



死んだ後は皆忘れ去られる

「賢者も愚者も、永遠に記憶されることはない。やがて来る日には、すべて忘れられてしまう。」2:16

死後の世界には何も持って行けない

「人は、裸で母の胎を出たように、裸で帰る。来た時の姿で、行くのだ。労苦の結果を何ひとつ持って行くわけではない。」5:14

努力の成果を努力しなかった人に与える

「知恵と知識と才能を尽くして労苦した結果を、まったく労苦しなかった者に遺産として与えなければならないのか。これまた空しく大いに不幸なことだ。」2:21

人生の無常・公平と不公平



悪人と善人の不公平

「わたしは悪人が葬儀をしてもらうのも、聖なる場所に出入りするのも、また、正しいことをした人が町で忘れ去られているのも見る。これまた、空しい。」8:10

悪人と善人の公平

「何事も同じで／同じひとつのことが善人にも悪人にも良い人にも／清い人にも不浄な人にも／いけにえをささげる人にもささげない人にも臨む。」9:2

能力があってもなくても

「足の速い者が競争に、強い者が戦いに／必ずしも勝つとは言えない。知恵があるといってパンにありつくのでも／聡明だからといって富を得るのでも／知識があるといって好意をもたれるのでもない。」9:11

人生の幸福・不幸



❧ 幸福とは飲み食いして楽しむこと

❧ 「わたしは知った／人間にとって最も幸福なのは／喜び楽しんで一生を送ることだ、と。人だれもが飲み食いし／その労苦によって満足するのは／神の賜物だ、と。」 3:12, 2:24, 5:17 他

❧ 「神から富や財宝をいただいた人は皆、それを享受し、自らの分をわきまえ、その労苦の結果を楽しむように定められている。これは神の賜物なのだ。」 5:18

❧ 満足しなければ不幸

❧ 「人が百人の子を持ち、長寿を全うしたとする。しかし、長生きしながら、財産に満足もせず／死んで葬儀してもらえなかったなら／流産の子の方が好運だとわたしは言おう。」 6:3

神の支配①



☞ すべては神から与えられている

☞ 「人間にとって最も良いのは、飲み食いし／自分の労苦によって魂を満足させること。しかしそれも、わたしの見たところでは／神の手からいただくもの。」2:24

☞ 神の業は永遠に不変

☞ 「わたしは知った／すべて神の業は永遠に不変であり／付け加えることも除くことも許されない、と。神は人間が神を畏れ敬うように定められた。」3:14

☞ すべては神の手の中にある

☞ 「わたしは心を尽くして次のようなことを明らかにした。すなわち／善人、賢人、そして彼らの働きは／神の手の中にある。」9:1

神の支配②



☞ すべてに「神の」時がある

- ☞ 「何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある。生まれる時、死ぬ時／植える時、植えたものを抜く時／殺す時、癒す時／破壊する時、建てる時、泣く時、笑う時／嘆く時、踊る時… 」3:1～9

☞ 試練の目的

- ☞ 「人の子らに関しては、わたしはこうつぶやいた。神が人間を試されるのは、人間に、自分も動物にすぎないということを見極めさせるためだ、と。」 3:18

☞ 人には神の業を理解できない

- ☞ 「妊婦の胎内で霊や骨組がどの様になるのかも分からないのに、すべてのことを成し遂げられる神の業が分かるわけではない。」 11:5

処世訓



- ❧ 「ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。倒れれば、ひとりがその友を助け起こす。倒れても起こしてくれる友のない人は不幸だ。」4:9-12
- ❧ 「順境には楽しめ、逆境にはこう考えよ／人が未来について無知であるようにと／神はこの両者を併せ造られた、と。」7:14
- ❧ 「人の言うことをいちいち気にするな。あなた自身も何度となく他人を呪ったことを／あなたの心はよく知っているはずだ。」7:21-22
- ❧ 「石を切り出す者は石に傷つき／木を割る者は木の難に遭う。なまった斧を研いでおけば力が要らない。知恵を備えておけば利益がある。」10:9-10
- ❧ 「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。七人と、八人とすら、分かち合っておけ／国にどのような災いが起こるか／分かったものではない。」11:1-2

人生の無常・老い



「その日には／家を守る男[腕]も震え、力ある男[背骨]も身を屈める。粉ひく女[歯]の数は減って行き、失われ／窓から眺める女の日[目]はかすむ。通りでは門が閉ざされ[耳]、粉ひく音はやむ[胃]。鳥の声に起き上がっても[眠り]、歌の節は低くなる[声]。人は高いところを恐れ、道にはおののきがある[足]。アーモンドの花は咲き[髪]、いなごは重荷を負い[歩み]アビヨナは実をつける[欲]。

人は永遠の家へ去り、泣き手は町を巡る。白銀の糸は断たれ、黄金の鉢は碎ける。泉のほとりに壺は割れ、井戸車は碎けて落ちる。塵は元の大地に帰り、霊は与え主である神に帰る。」12:3-7

結論



「それらよりもなお、わが子よ、心せよ。書物はいくら記してもきりが無い。学びすぎれば体が疲れる。すべてに耳を傾けて得た結論。『**神を畏れ、その戒めを守れ。**』これこそ、人間のすべて。神は、善をも悪をも／一切の業を、隠れたこともすべて／裁きの座に引き出されるであろう。」12:12-14